SHOW-HEY シネマルーム

★★★★★

日本海大海戦

1969 年／日本映画
配給：東宝／128 分

2025（令和 7）年 8 月 31 日鑑賞　シネ・ヌーヴォ

Data　２０２５－８２

監督：丸山誠治
特技監督：円谷英二
出演：三船敏郎／加山雄三／仲代達矢／黒沢年男／小鹿敦／東山敬司／久保明／佐藤允／藤田進／平田昭彦／土屋嘉男／船戸順／佐原健二／田島義文／小泉博／田崎潤／柳永次郎／加藤武／阿部徹／清水将夫／清水元／北竜二／森幹太／高橋俊行／笠智衆／松本幸四郎

みどころ

戦後 80 年の節目となる 2025 年 8／15 に公開された『雪風　YUKIKAZE』の出来はイマイチだったが、60 年代後半からの「東宝 8.15 シリーズ」では素晴らしい作品が次々と！その第 3 弾が本作だが、そこで、なぜ日本海大海戦が？

私は司馬遼太郎の小説『坂の上の雲』（68 年～72 年）が大好きだが、本作には日本海大海戦における“敵前大回頭”＝“T 字戦法”の生みの親たる参謀・秋山真之は登場しない。その理由は考えれば当然だから、本作ではそれは横に置き、CG 撮影のない時代に特技監督・円谷英二が心血を注いだ、107 隻のミニチュア艦船による“プール内での大海戦”の勇姿をたっぷり楽しみたい。

さらに注目すべきは、第 1 作『日本のいちばん長い日』（67 年）、第 2 作『連合艦隊司令長官　山本五十六』（68 年）に続いて、本作で名優・三船敏郎が演じた東郷平八郎の人となりと、そんな人なればこそ抱え込んでいた苦悩の姿だ。

秋山真之を含め、あの時代の各界のリーダーの責任感はすごかった。それに比べれば、衆院選、東京都議選、参院選と 3 連敗し、“必達目標”を達成できなかったにもかかわらず、あれこれと述べて総理総裁の座に固執する石破茂の姿のみじめさとバカバカしさは・・・？

――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――＊――

■□■「戦後 80 年記念 決定版！日本の戦争映画史」が開催！■□■

大阪市西区にある“こだわりの映画館”シネ・ヌーヴォでは、2025 年 7／26 から 9／12 まで「戦後 80 年記念 決定版！日本の戦争映画史」を開催し、40 作品を一挙上映！その作品名は次のとおりだ。

◉上映作品… ＜戦意昂揚映画＞『五人の斥候兵』1938/78分/田坂具隆/小杉勇、見明凡太朗 『ハワイ・マレー沖海戦』1942/115分/山本嘉次郎/大河内傳次郎、原節子 『マレー戦記・進撃の記録』1942/71分/ドキュメンタリー/構成:飯田心美 『サヨンの鐘』1943/74分/清水宏/李香蘭、近衛敏明 『陸軍』1944/87分/木下惠介/田中絹代、笠智衆 『桃太郎 海の神兵』1945/74分/アニメ/瀬尾光世 ＜広島・長崎＞『ひろしま』1953/104分/関川秀雄/岡田英次、月丘夢路 『TOMORROW 明日』1988/105分/黒木和雄/桃井かおり、仙道敦子 『黒い雨』1989/123分/今村昌平/田中好子、北村和夫 『父と暮せば』2004/100分/黒木和雄/宮沢りえ、原田芳雄 ＜"特攻隊の生還者" 須崎勝彌脚本作品＞『あゝ零戦』1965/87分/村山三男/本郷功次郎、長谷川明男 『太平洋奇跡の作戦 キスカ』1965/105分/丸山誠治/三船敏郎、山村聰 『南十字星』1982/144分/丸山誠治/中村敦夫、北大路欣也 ＜破滅への道「二・二六事件」＞『二・二六事件 脱出』1962/96分/小林恒夫/高倉健、江原真二郎 『激動の昭和史 軍閥』1970/134分/堀川弘通/小林桂樹、加山雄三 『動乱』1980/150分/森谷司郎/高倉健、吉永小百合 ＜東宝特撮戦争映画＞『ハワイ・ミッドウェイ大海空戦 太平洋の嵐』1960/118分/松林宗恵/夏木陽介、三船敏郎 『日本海大海戦』1969/127分/丸山誠治/三船敏郎、加山雄三 『連合艦隊』1981/145分/松林宗恵/永島敏行、金田賢一 ＜巨匠たちの戦争映画＞『戦争と平和』1947/100分/山本薩夫、亀井文夫/池部良、岸旗江 『風の中の牝雞』1948/83分/小津安二郎/佐野周二、田中絹代 『また逢う日まで』1950/111分/今井正/久我美子、岡田英次 『壁あつき部屋』1956/110分/小林正樹/三島耕、岸惠子 『あゝ声なき友』1972/105分/今井正/渥美清、倍賞千恵子 『ひめゆりの塔』1982/142分/今井正/栗原小巻、吉手川祐子 『東京裁判』1983→2018/277分/ドキュメンタリー/小林正樹 『八月の狂詩曲』1991/98分/黒澤明/村瀬幸子、リチャード・ギア ＜多彩な戦争映画の数々＞『二等兵物語 女と兵隊・蚤と兵隊』1955/95分/福田晴一/伴淳三郎、花菱アチャコ 『人間魚雷出撃す』1956/85分/古川卓巳/石原裕次郎、長門裕之 『硫黄島』1959/88分/宇野重吉/大坂志郎、芦川いづみ 『零戦黒雲一家』1962/110分/舛田利雄/石原裕次郎、二谷英明 『戦場にながれる歌』1965/131分/松山善三/児玉清、加山雄三 『春婦伝』1965/96分/鈴木清順/川地民夫、野川由美子 『サンダカン八番娼館 望郷』1974/121分/熊井啓/田中絹代、高橋洋子 ＜創られ続ける戦争映画の数々＞『ゆきゆきて、神軍』1987/122分/ドキュメンタリー/原一男 『スパイ・ゾルゲ』2003/182分/篠田正浩/イアン・グレン、本木雅弘 『火垂るの墓』2008/100分/日向寺太郎/吉武怜朗、畠山彩奈 『野火』2014/87分/塚本晋也/リリー・フランキー、中村達也 『海辺の映画館 キネマの玉手箱』2019/179分/大林宣彦/厚木拓郎、常盤貴子 特別上映『Yokosuka1953』2021/107分/木川剛志 ＜以上、40作品＞

この 40 本のうち、私は既に 10 本以上を鑑賞しているが、それは自宅の DVD 鑑賞を含めたもの。他方、本作は横須賀にある、戦艦三笠記念館で 1 度鑑賞したものだが、こんな名作は何度観てもいい

ものだから、「これは再必見！」とばかりに映画館へ！チラシによれば、その上映日と作品概要は右のとおり。

日本海大海戦

1969年／東宝／127分／35mm　監督：丸山誠治／特技監督：円谷英二／脚本：八住利雄／撮影：村井博／美術：北猛夫／音楽：佐藤勝
出演：三船敏郎、加山雄三、仲代達矢、黒沢年雄、佐藤允、藤田進

今年は日露戦争から120年。開戦から乃木希典（笠）による旅順攻略、日本海海戦における東郷平八郎（三船）率いる連合艦隊が、世界最強のロシアのバルチック艦隊を撃破するまでを描く戦争スペクタクル巨編。旗艦三笠にＺ旗を掲げた東郷の大胆不敵な戦法！ 三笠は実際に記念艦として現存する実物で撮影。円谷英二の最後の特撮映画。

■□■東宝 8.15 シリーズ第３作で、なぜ日露戦争を？■□■

「東宝 8.15 シリーズ」の第 1 作は『日本のいちばん長い日』（67 年）、第 2 作は『連合艦隊長官山本五十六』（68 年）。「東宝 8.15 シリーズ」は当然太平洋戦争を題材にして企画されたものだが、なぜその第 3 作で太平洋戦争ではなく、日露戦争を？「日本海大海戦」を描いた作品としては、新東宝の『明治天皇と日露大戦争』（57 年）がある。しかし、同作では日本海海戦は短時間の描写であったため、それを本格的に描いたのは本作品が初だ。また、イエス・キリストを直接スクリーン上に登場させるのをハリウッド映画が控えていたのと同じように邦画では、昭和天皇や明治天皇のスクリーン上への露出は控えるようにとの不文律があったが、それも本作では解除されているので、それにも注目！

他方、戦後の日本映画を代表する俳優たる三船敏郎は、第 1 作では陸軍大臣・阿南惟幾役を、第 2 作では連合艦隊司令長官・山本五十六役を熱演していたが、本作では連合艦隊

司令長官・東郷平八郎役を如何に？

■□■広瀬少佐、明石大佐に注目！他方、秋山参謀は？■□■

団塊世代の私にとって、少しだけ兄貴分の加山雄三は歌手としてはもちろん、映画スターとしても『若大将シリーズ』等での憧れのカッコいい若者だ。『若大将シリーズ』では、良家のお坊ちゃま、ボンボン俳優としてのキャラが目立っていたが、それを一本立ちさせた（？）のが、三船敏郎と共演した黒澤明監督の『赤ひげ』（65 年）だ。本作では、ボンボン俳優から本格派、演技派俳優に急転換した（？）直後の俳優・加山雄三が、旅順港閉塞作戦に従事する広瀬武夫少佐役で登場するので、それに注目！

また、日露戦争で後方撹乱作戦を担うスパイ工作を行う陸軍武官として重要な役割を果たしたのが明石元二郎大佐。そんな明石大佐役を『人間の條件』全 6 部作での熱演が光る名優、仲代達矢が演じているので、それに注目！

他方、司馬遼太郎の小説『坂の上の雲』（68 年～72 年）やNHK スペシャルドラマ『坂の上の雲』で秋山兄弟のことをよく知っている私が、本作に大きな違和感を持ったのは、日本海大海戦において大きな役割を果たした参謀・秋山真之中佐が登場していないことだ。「日本海大海戦」におけるＴ字戦法はもとより、「本日天気晴朗なれども浪高し」の暗号文においても、さらに真之起草の「連合艦隊解散の辞」における、末尾の「勝って兜の緒を締めよ」の名文句においても、知将・秋山真之の活躍は有名なはずだ。もっとも、それが有名になったのは司馬遼太郎の小説が大ヒットしたおかげ？言い換えれば、本作製作時はまだあまり有名ではなかったということ・・・？

■□■バルチック艦隊の進路は？逃走させず完勝するには？■□■

「日露戦争」を描いた小説や映画は多いが、その最高峰は司馬遼太郎の『坂の上の雲』。とりわけ、その後半で描かれる秋山好古を主人公にした陸軍の「遼陽会戦」と「奉天会戦」の姿は圧巻。そして、さらにその上を行くのが、秋山真之が提案し、連合艦隊司令官東郷平八郎が採用し実行した「日本海大海戦」におけるＴ字戦法だ。

他方、そこで見逃してはならないのは、遥か遠くヨーロッパのリバウ港にいるロシアのバルチック艦隊が、いつ、どのような規模で、どの進路で日本軍と戦うためにグラジオストックまでやってくるのかということだ。現在のアメリカの海軍がヨーロッパ方面とアジア太平洋方面に二分されているのと同じように、当時のロシア海軍はヨーロッパ方面のバルチック艦隊と太平洋方面の太平洋艦隊に二分されていた。そのため、日本の連合艦隊は開戦当初、陸軍の兵士や大量の物資を大陸に送り込むための海上制覇（制海権の確保）のために、太平洋艦隊とウラジオストック方面・旅順方面で戦い、黄海海戦や旅順攻防戦でこれをほぼ壊滅させた上で、大陸での陸軍の会戦に励んでいた。

したがって、そこにヨーロッパ方面から新たにバルチック艦隊がやってきてウラジオストックに入港してしまえば、以降の日本軍の制海権が危うくなることは明白だ。そこでの連合艦隊の任務は、バルチック艦隊を迎え撃ち、世界にも例のない大規模な海上大海戦で

これを“壊滅”させることだが、そのためにはまずバルチュク艦隊の捕捉が大前提だ。しかし、海は広い。バルチック艦隊は一体どのコースを通って、いつごろ日本近くを通り、ウラジオストックへ入港しようとするの？それを知るためには、あらゆる情報とその分析が不可欠だが、ロシア国内やパリに潜伏している明石元二郎陸軍大佐からの情報は？その他、『坂の上の雲』でも描かれていたあの当時には珍しい、バルチック艦隊の進路をめぐるさまざまな情報戦の展開を、本作でもしっかり楽しみたい。

英国の妨害によってスエズ運河を通れなくなったバルチック艦隊は、アフリカの最南端を通り、インド洋から南シナ海、東シナ海を通って日本に近づいたが、その後彼らは①最短の対馬コースを通るの？それとも②わざわざ遠回りして太平洋コースを進むの？その予測が難しい。リバウ港からはるばる海を超えてやってきたバルチック艦隊が、ウラジオストックに入り込んでしまえば、もはや万事休す！連合艦隊は何としてもウラジオストックに入る前にこれを捕捉し全滅させなければならないが、その任務の達成は？

そこで参謀・秋山真之が編み出したのが何とも大胆な T 字戦法だが、その研究成果を実践で発揮するためにはバルチック艦隊と遭遇することが大前提。東郷平八郎はかねてより対馬説で確信を持っていたが、さて本作で三船敏郎が演じた信念の人・東郷平八郎ですら避けることのできなかった、その進路についての迷いや乱れは？本作ではそれについてもじっくり検証したい。

■□■特技監督・円谷英二と圧倒的な特撮シーンに注目！■□■

戦後 80 年の節目となった 2025 年 8／15 には、東宝映画『雪風　YUKIKAZE』が公開された。ミッドウェイ、ガダルカナル、ソロモン、マリアナ等のすべての海戦に参加しながら、それらすべてを生き抜いた「駆逐艦雪風」は「幸運艦」と呼ばれたが、戦艦大和の護衛として参加した連合艦隊最後の作戦たる「天一号作戦」では当然激烈な対空戦闘に巻き込まれることになった。私は一方で同作がテーマとした「多くの仲間を救い続けた、『雪風』の史実に基づく物語。」や「戦うこと、それは、生きること。」に違和感を持ったが、他方では、同作が CG で描く海戦シーンや対空戦シーンにも違和感を持った。それに対して、本作は『ゴジラ』（54 年）等の特撮で有名な特技監督円谷英二が、特撮監督として参加した最後の作品になったが、本作が描く日本海海戦の特撮シーンは如何に？

Wikipedia には、「本作絵コンテは、円谷自身が描いたものではなく、美術の井上泰幸が用意したものを用いた」、「艦船のミニチュアは美術スタッフ 60 人を動員して 107 隻が用意された。」、「敵前大回頭をプールにて撮影するため、従来の艦船ミニチュアよりも小型の 3 メートル大のものが多く造られた。」、「戦艦三笠のミニチュアは 13 メートルにおよぶ巨大なものが造られた。」等と解説されているが、本作の白眉となる「日本海大海戦」の“特撮”の素晴らしさをじっくり味わいたい。

2025（令和 7）年 9 月 3 日記